

トマトキバガにご注意ください！

- トマトキバガは海外から侵入したトマトを加害するガの一種です。
- 幼虫がトマトの果実に穴を開けるため、多発生すると減収の恐れがあります。

繁殖能力が高く、年に数世代が発生します。幼虫はトマトの葉や果実を食害し、食害された果実は穴が開いてその部分が腐敗するため商品価値が低下します。

体長：成虫 5～7 mm 幼虫（終齢（4齢）） 8 mm程度
卵～成虫までの生育期間：24～38日

（気温が低いと期間が延びる）

発生地域：欧州、アフリカ、中東、インド、東南アジア、中南米、中国、台湾など

その他の寄主作物：ナス、ピーマン、パレイショなど



◆ トマトの葉に食害痕はありませんか？

葉の食害痕の様子

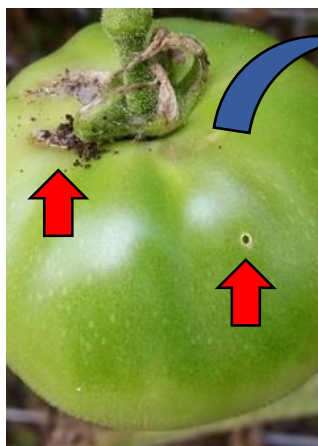
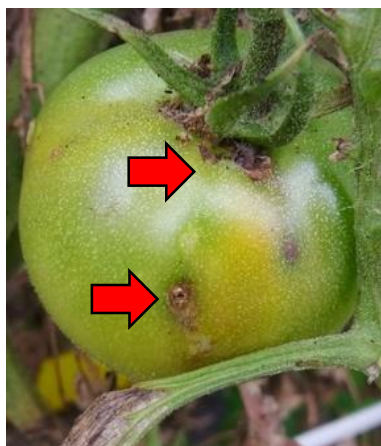


ハモグリバエより広範囲に食害痕が残ります



食害が進むと葉全体が枯れあがることも…

◆ 穴の開いた果実はありませんか？



果実の中にこんな幼虫がいたら、トマトキバガかも？

幼虫は葉の食害部分でも見つかります。

オオタバコガの幼虫よりも小さく、体表面に目立つ剛毛はありません。体色は乳白色～淡緑色です。

もしかしたら…と思ったら、お近くの農業普及・振興課やJAまでご連絡ください。

詳しい情報は右のQRコードから→



トマトキバガの「ハウス内での発生」と「発生後、ハウス内から野外への拡散」を防ぐため、以下の対策を行いましょう。

予防

まずは、ハウス内での発生を防ぐ

- 1 葉や果実を日頃から注意深く観察し、
疑わしい食害痕の早期発見に努める。
- 2 トマトキバガに登録のある農薬で防除を行う。

もし、疑わしい症状・虫を確認した場合は、関係機関へ連絡する。
※関係機関の連絡先は、裏面参照

トマトキバガが発生した場合には・・・

駆除

ハウス内から野外への拡散を防ぐ

- 1 栽培が終了するまで薬剤防除を継続する。
- 2 被害果や被害葉には幼虫が潜んでいる可能性があるため、除去して土中深く埋設するなど適切に処分する。
- 3 栽培終了後は、速やかに株を枯らす。残渣の片づけはトマトが完全に枯れてから行う。
＜留意点＞
 - （１）事前に果実は取り除き、土中深く埋設するなど適切に処分する。
 - （２）ハウス外に持ち出したトマト残渣は、土中深く埋設するなど適切に処分する。
 - （３）ハウス内の雑草は生息場所となり得るため、除草を徹底する。
- 4 使用後のマルチは、速やかに廃棄処分する。なお、すぐに処分できない場合は、処分までの期間はシート等をすき間なく被せておき、野外にトマトキバガが飛び出さないように保管する。
- 5 次作の準備を始めるまで引き続きハウス内外の除草を徹底する。